の出会 からはじまっ 必然のドラマ

能登演劇物語最終幕

「小さな町の大きな挑戦」、「仲代さん高水準に満足」など、華々しい見出しで報じられた第1回しい見出しで報じられた第1回う物語」。予想を超える大盛況のう物語」。予想を超える大盛況の音響が行う年10回程度の公演の名塾が行う年10回程度の公演の目が数々の作品が上演されると、県内外から観客が訪れるようにより「もはや全国区」と評されるほどとなった。

までもなく、第1回ロングラン公回作を望む声が高まるのは言う成功を収めた演劇ホールに次

とった旧中島高等学校演劇コー と考えている。今度はお客さんに スの生徒54人延べ700 力ある演出や、妖精の衣装をま 動員。外舞台に馬が登場する迫 回の公演で約1万5000人を 深い思いが見事に実を結び、23 たい」という演劇や観客に対す 楽しんでいただける題目を考え たちは悲劇と喜劇は裏表にある 感のある舞台が続いてきたが、私 劇に込められた「これまでは重量 な女房たち」。無名塾初となる喜 ばれたのは、「ウインザーの陽気 うことが決定した。演目として選 演の4年後、新世紀が幕を開け た平成13年に第2回公演を行 る

これまで以上に寄せられた。とれまで以上に寄せられた。といった感動や激励の言葉がたい」といった感動や激励の言葉がれ、「さすが演劇堂の芝居。全国れ、「さすが演劇堂の芝居。全国

第3回ロングラン公演は、七尾市と田鶴浜町、中島町、能登島町の合併の祝賀的意味を持った町の合併の祝賀的意味を持ったのもものをと「いのちぼうにふろう物語」を再演。ある調査で石川県内におよそ4億円の経済効果をもたらしたといわれ、新生七尾市の門出に大輪の花を添えた。一歩ずつ着実に地域に根付き、全国への発信拠点としての役割もとして物語はいよいよ、その歴史をして物語はいよいよ、その歴史を振り返る中で外すことができない第4回公演へと進んで行くのでい第4回公演へと進んで行くので

平成19年3月。「マクベス」公演を検討していたさなか大きな地を検討していたさなか大きな地を検討していたさなか大きな地に登り回の全国巡業を取りやめ、能登限定50回の「マクベス」公演能登限定50回の「マクベス」公演を提案。この申し出に、スタッフたちはありがたいと感じながらも、れる能登に本当に観客が来てくれるのだろうかという大きな不安を覚えたのも事実だった。

まはこの「マクベス」には、仲代登演劇堂のこけら落とし公演に登演劇堂のこけら落とし公演に合いたものの、演出やエキストラの確保、予の、演出やエキストラの確保、予の、演出やエキストラの確保、予など難問山積みで断念せざるをなど難問山積みで断念せざるをなどがあったのだ。それを能登があえなかったのだ。それを能登があるなかったのだ。それを能登があるなかったのだ。それを能登があるなかったのだ。それを能登があるなかったのだ。それを能登があるなかったのだ。それを能登があるというには、中代

挑戦であったのかもしれない。ることは、仲代氏なりの復興へのることは、仲代氏なりの復興への天災の深刻な被害から立ち上が

期待と不安が入り混じる中、 幕を開けた第4回ロングラン公 演「マクベス」。結果的には市内外 から約3万3千人を誘客。地域 に賑わいと社会的、経済的波及 に賑わいと社会的、経済的波及 が兵士役で登場する豪華な戦闘 が兵士役で登場する豪華な戦闘 シーンは、世界広しといえど能登 でしか見られないマクベスを象徴 する圧巻の一幕だった。

がエキストラに贈った言葉にこんを下ろした「マクベス」で、仲代氏傷り止まない拍手とともに幕

な一節がある。

の気持ちで「杯です。」又、芝居作りの同志として、連帯下さった皆様を、共演者として、「此のマクベスチームに参加して

着実に地域の力になっていた。が見えていたに違いない。演劇はの向こうに助け合い支え合って明の向こうに助け合い支え合って明かし仲代氏の目には、エキストラかし神代氏の目には、エキストラ

りに期待せずにはいられない。 舞台内外での出会いや盛り上が が開幕する。プロと市民が協力し が開幕する。プロと市民が協力し が開幕する。プロと市民が協力し が開幕する。プロと市民が協力し